

第12回 堀川一斉調査

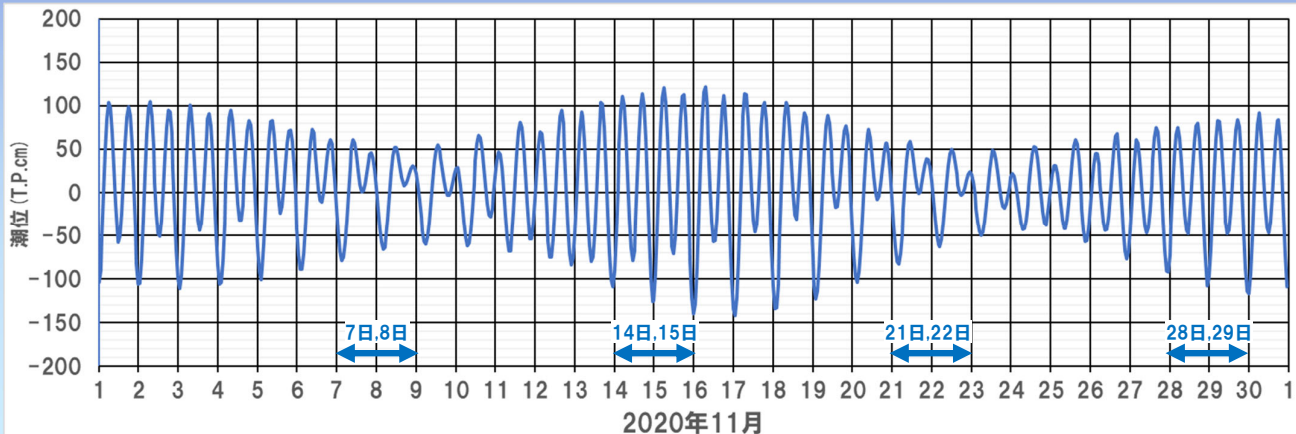
市民の視点と感覚で

水上交通の運航による堀川の変化を調べる

調査期間:2020年11月7日(土),8日(日),14日(土),15日(日)
21日(土),22日(日),28日(土),29日(日)
運航区間:朝日橋~ピア納屋橋~白鳥~宮の渡し

2020年11月 調査期間の潮位(名古屋港)

資料:名古屋港予測潮位 気象庁HP



■調査方法

1. 調査項目: 定点観測の項目(通常の項目)
2. 記録様式: 定点観測の記録表を利用してください。
3. 写真・動画での記録
カメラ・スマートフォンをお持ちの方は、
写真・動画(30秒程度まで)での記録もお願いします。
送り先: 2010@horikawa1000nin.jp

調査の結果は、スマートフォンなどからも入力が可能です。
透視度やCODの測定値がなくても結構です。horizon

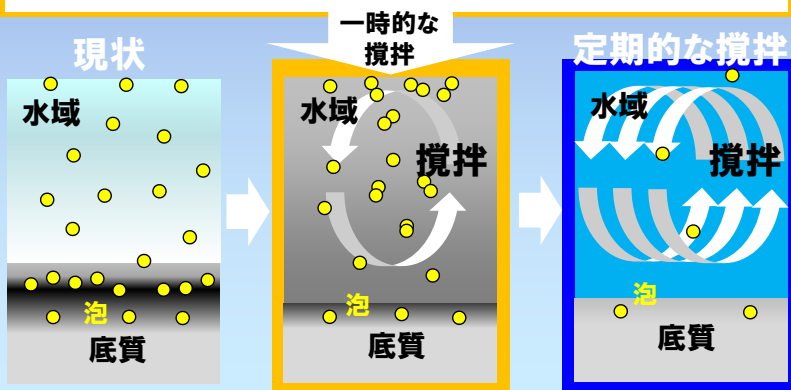


定点観測結果
入力ホーム QRコード



■主な着目点 船が移動すると...

水域が攪拌されます。これによって底質が巻き上がり、堀川の水が濃い灰色に濁ることがあります。また、底質中に硫化水素などの泡がある場合は、巻き上げられた泥とともに泡が水面に浮かび上がることがあり、においの原因物質が大気に揮散することがあります。このため、一時的に水の汚れの印象が悪くなる場合があります。



今までの市民の気づき

定期的に船が
運航されると...

水域が定期的に攪拌されます。
底質の巻き上げとともに、底質中の硫化水素などの泡も定期的に開放され、底質中の泡の量は現状よりも少ない状態になると考えられます。
さらに長期の定期運航が実現すると、水域が継続的に攪拌されることで、浮遊物(有機物を含む)が沈降・堆積しにくい環境になるとともに、川底に酸素が供給され続けます。
これによって少しずつですが、川底の状態が改善(硫化物の生成が減少、底質中の硫化物が減少)し、水の汚れの印象が更に改善すると考えられます。

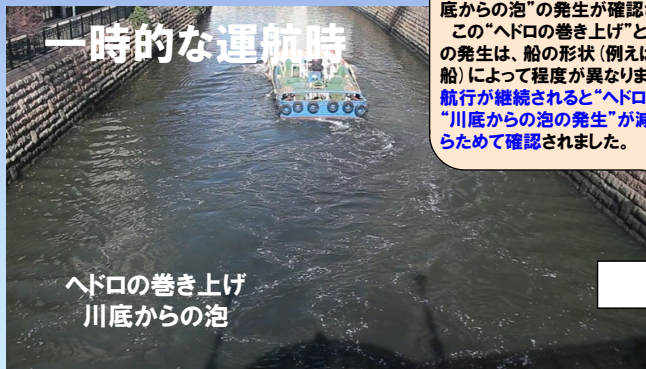
■ 運航によって生じると想定している現象

項目	内 容
水の攪拌	・成層化*の破壊 *水温・塩分などによる二層化
	・水中への酸素の供給
	・浮遊物の沈降を抑制
	・浮遊物の凝集を促進
底質の攪拌	・底質（有機物を含む）の浮遊
	・底質中の泡（硫化水素など）の開放
	・底質への酸素の供給

■ 運航時に生じると想定される状況

項目	一時的な運航時	項目	定期的な運航時
視覚	白濁化（青潮）	視覚	無色
	濃灰色のヘドロ巻き上げ		透明感、透視度の改善
	透明感、透視度の悪化	嗅覚	無臭
嗅覚	硫化水素臭の発生		
	ヘドロ臭の発生	生物	付着生物の生息
生物	水生生物の死（急激な貧酸素化）		

一時的な運航時



2017年（平成29年）12月7日 納屋橋

船が航行する時に“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡”の発生が確認されました。この“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡”の発生は、船の形状（例えば、運搬船、屋形船）によって程度が異なりました。また、船の航行が継続されると“ヘドロの巻き上げ”と“川底からの泡の発生”が減少することも、あらためて確認されました。



約1箇月後



約1箇月後
2018年（平成30年）1月10日 錦橋

（仮説）定期運航による水質改善のイメージ

船の運航頻度が高くなると川底の環境が改善する

現状

